



ロジックモデルのすすめ

— 京大式～研究開発プログラムとURA人材育成の実践 —

園部 太郎 Ph. D.

リサーチ・アドミニストレーター (URA)

京都大学学術研究展開センター(旧:学術研究支援室)

Kyoto University Research Administration Center (KURA)

本セミナーのねらいとターゲット層

ねらい

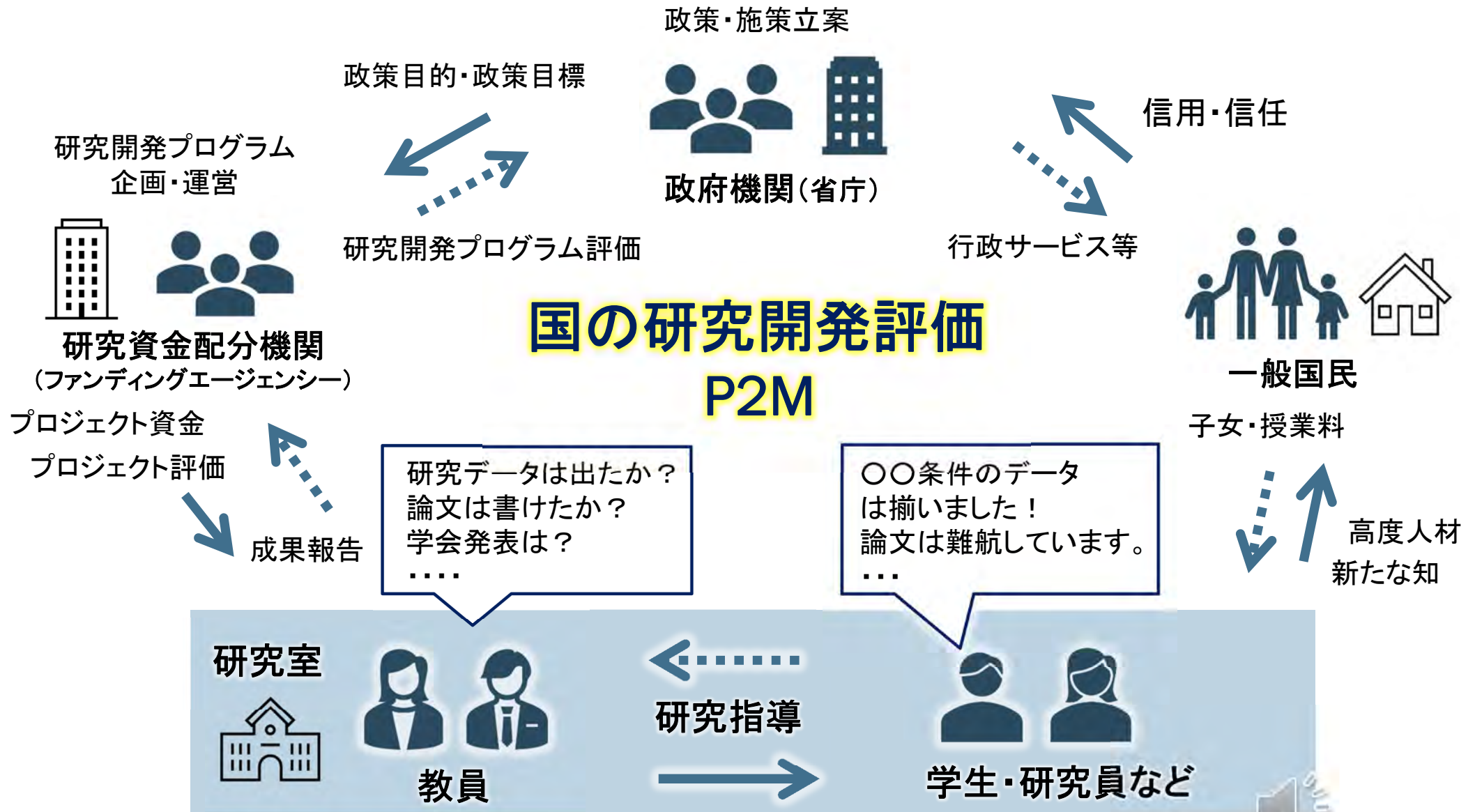
P2Mのツールの一つであるロジックモデルについてもう少し詳しく勉強してみようと思うきっかけをつくること。

ターゲット層(例)

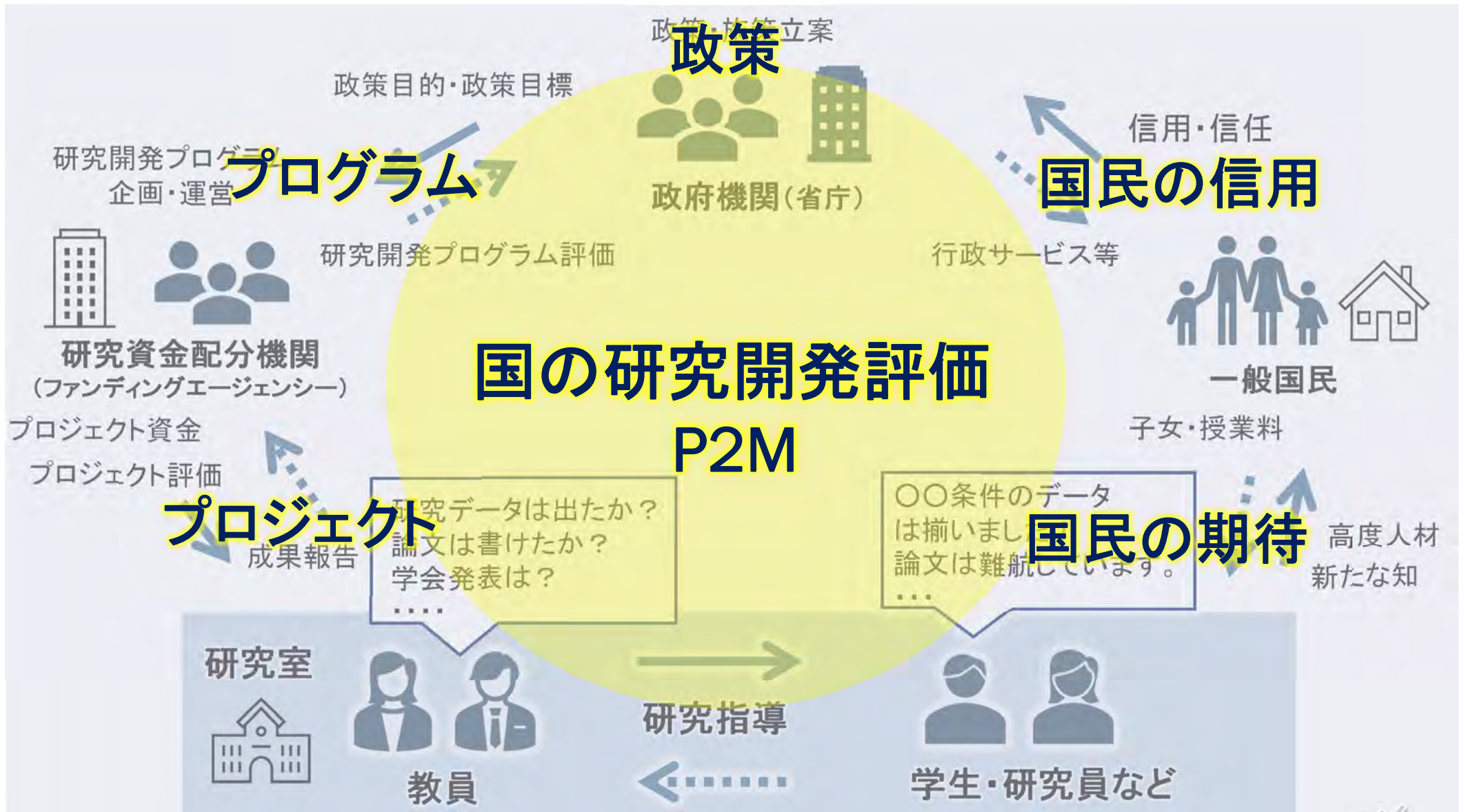
- ①卒業論文や研究室ゼミの研究プロジェクトに参加を始めた学部・修士学生
- ②研究室の大型研究プロジェクトに参加する博士学生・ポスドク
- ③研究室や研究ユニットの若手P.I.やチーム・リーダー
- ④事業企画部やプロジェクトマネジメント部門へ配属された若手社員
- ⑤大学の研究支援人材・リサーチアドミニストレーター等
- ⑥資金配分機関のプログラム運営・管理のオフィサーやスタッフ
- ⑦政府機関(省庁)の若手政策立案者・行政官
- ⑧国際機関でプロジェクトマネジャー・コーディネーターを目指している方など



研究室でよくある光景を「国の研究開発評価」で俯瞰的に見る



研究室でよくある光景を「国の研究開発評価」で俯瞰的に見る



研究室マネジメントをマイクロレベルで見る

P2M用語の定義の認識・理解の違いによるコミュニケーションのギャップ

例: 資源・アウトプット・アウトカム・ビジョンの定義

ツールの認識・理解にギャップ有

アウトカムは？

アウトプットは出ているか？



知識量の差

教員

ツールの定義

バラバラ



学生・研究員等

ツールの定義

- 話が噛み合わない
- 建設的な議論が進まない
- 計画通りに進まない
- 成果がうまれない。。。。

ツールの認識・理解にギャップ無

アウトカムは？

アウトプットは出ているか？



知識量の差

教員

ツールの定義を共有

論文引用数が増えました

〇〇まで出てます



学生・研究員等

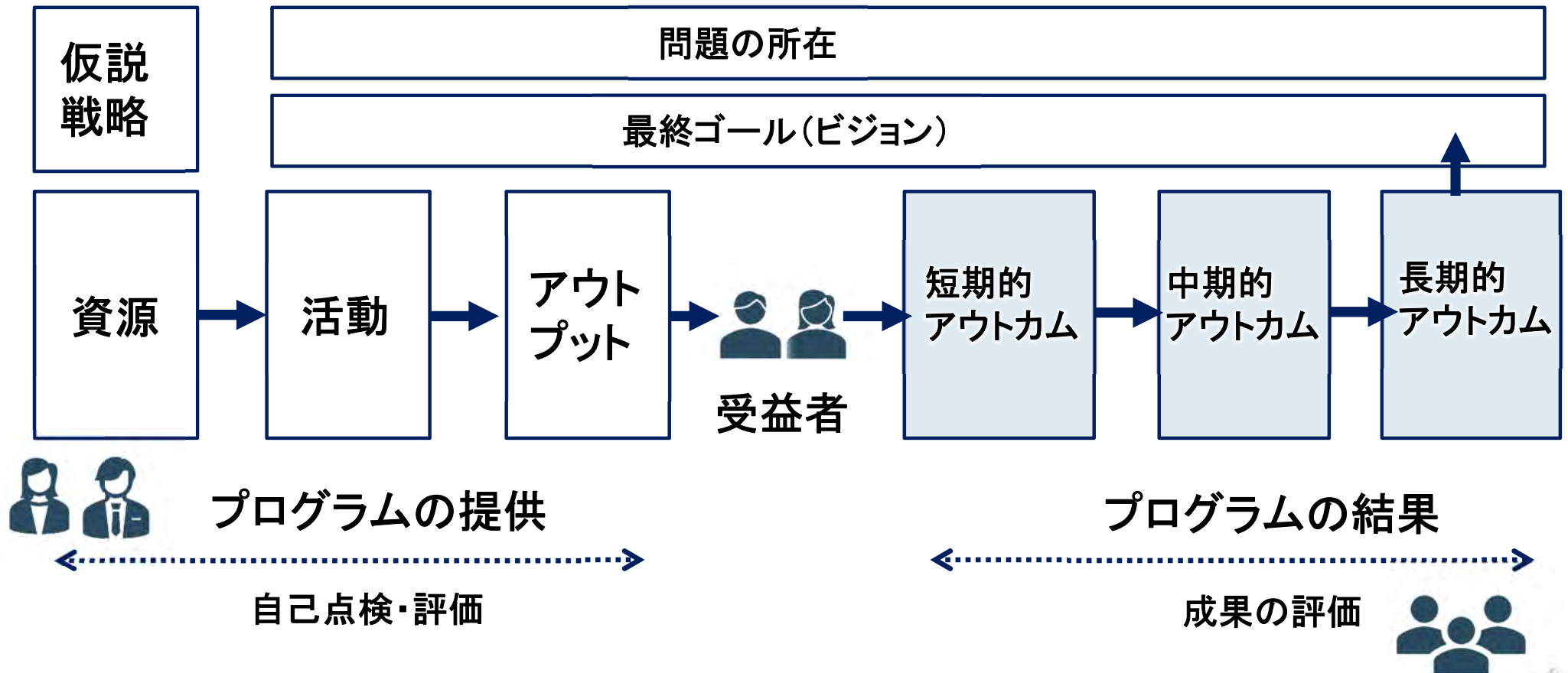
- 話が噛み合おう
- 建設的・共創的な議論が進む
- 計画通りに進む
- 成果がうまれる



共創的なコミュニケーション

研究マネジメントやプログラム・プロジェクトマネジメント(P2M)のツール

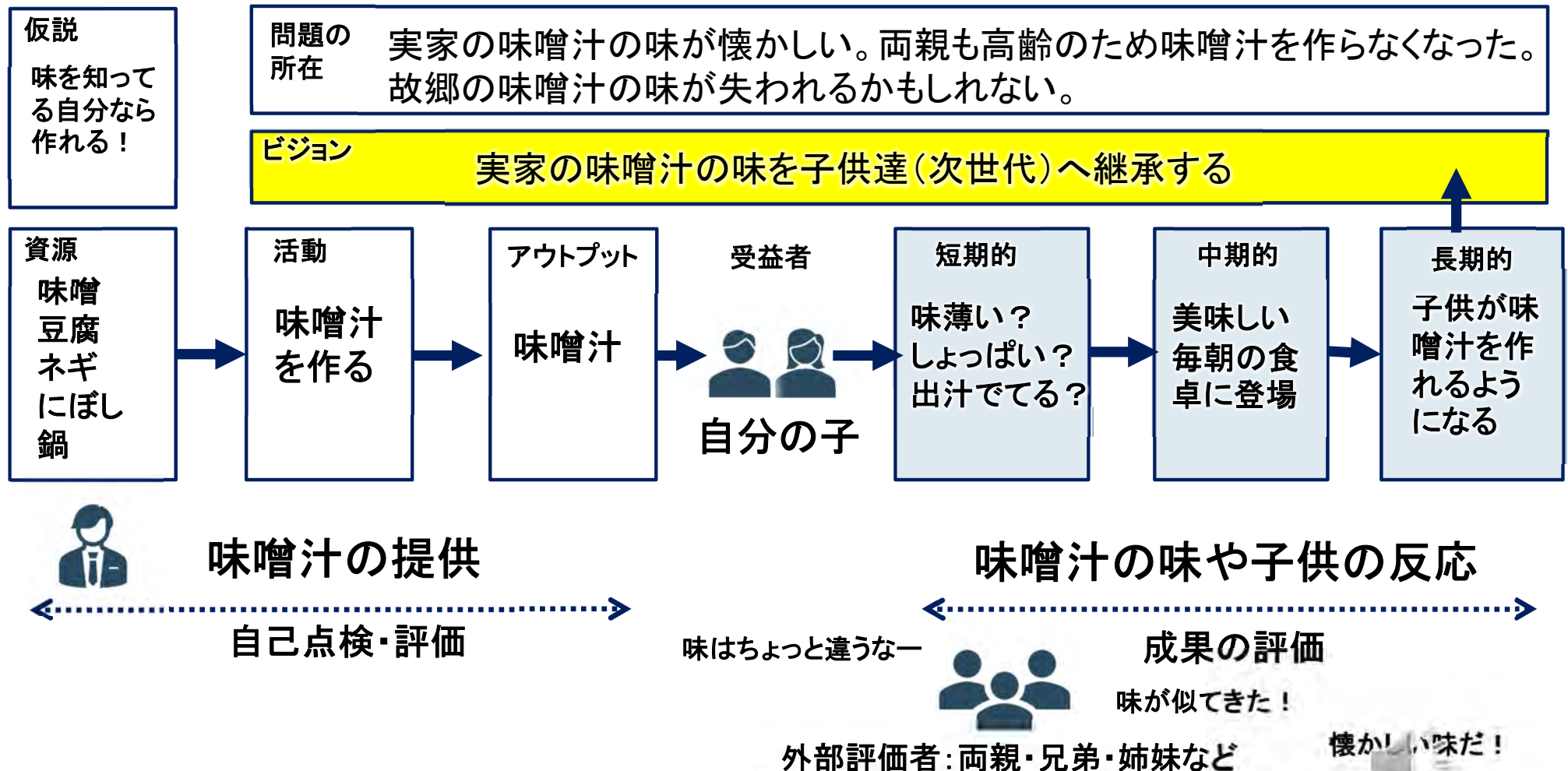
ロジックモデル





ロジックモデルのイメージを掴む

例：実家の味噌汁の味を再現して自分の子に食べさせるプログラム



京都大学で“ロジックモデル”の活用実践例

KURAの研究開発プログラムの考え方

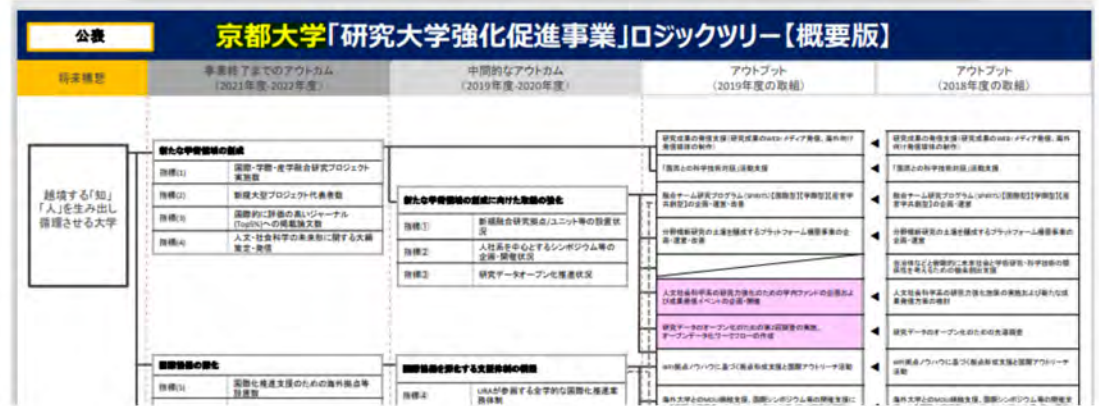
「国の研究開発評価に関する大綱的指針（総合科学技術・イノベーション会議）」の考え方を取り入れて、企画・運営・評価・改善を行う「研究開発プログラム」

- 2012年に内閣総理大臣決定された「**国の研究開発評価に関する大綱的指針**」の考え方を2013年からKURAで試行開始（理論）（1）、（2）
- 京大の基本理念、中期目標・中期計画（第2期～4期）に基づく研究担当理事所掌のアクションプラン（学内予算）、指定国立大学構想、研究大学強化促進事業、125周年記念寄附金等の**国費・公費を基に研究力強化に取り組む事業等**
- 国の標準的な「理論」と学内ファンドの企画・運営・評価・改善の「実践業務=OJT」を通じ、URAとしての高い専門スキルを身に着けた**人材育成とノウハウの学内普及**

出典(1): 国の研究開発評価に関する大綱的指針(改定案) 総合科学技術・イノベーション会議

出典(2) 柘原岳人「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備（研修・教育プログラムの作成）講義教材 9.研究評価対応」、文部科学省、2014

ロジックモデルを活用したKURAプログラム・プロジェクトマネジメント



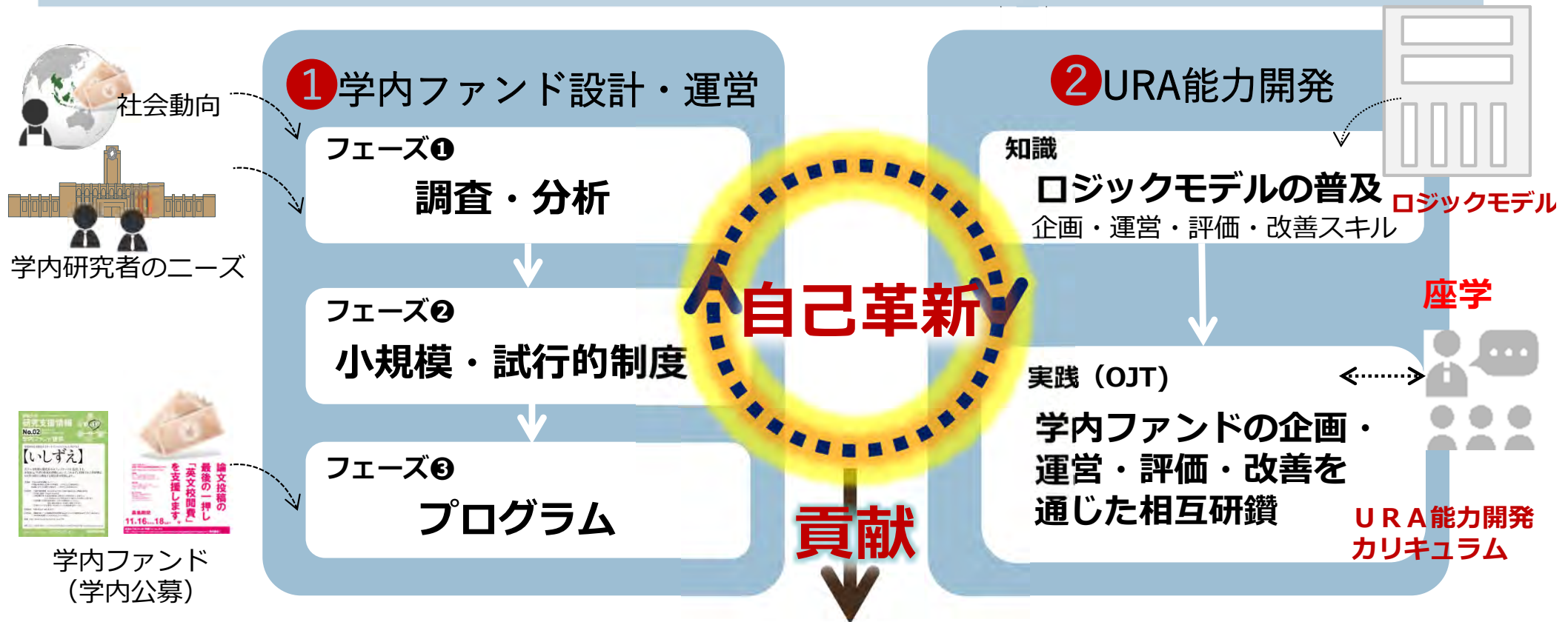
「研究大学強化促進事業」令和3年度フォローアップコメント

機関名	フォローアップコメント
京都大学	<p>○日本の URA の先導的モデル大学として、我が国の URA 制度定着のために中心的な役割を果たしていることは評価できる。特に、URA の勤務評定に基づく昇給・昇格や無期雇用への移行を実施したことは高く評価できる。</p> <p>○コロナ禍を踏まえた取組として、京都大学 ASEAN 拠点が中心となり、国際担当 URA の貢献の下、コロナ禍でも学生が安全に国内外のフィールドワークを体感できる映像教材を開発し、Web サイトにて一般公開したことは評価できる。</p> <p>○研究支援専門職の国際大会「INORMS2021」での京都大学による口頭発表内容については、URA の先進的な取組事例を紹介しており、研究大学コンソーシアム等を通じて広く国内の大学等に共有するとともに、更なる先導的な取組に着手することを期待する。</p>



ロジックモデルを活用した研究力強化モデル

- ① 学内ファンドの設計・運営を通じて
- ② URA能力開発を一体的に取組、
- ③ 大学全体の研究力強化策の企画・立案支援を行う



- ③ 大学全体の研究力強化策の企画・立案支援

研究の各フェーズや研究者の年齢層等に応じた効果的な学内ファンドの企画と評価

ロジックモデル活用

研究力強化モデルから創出されたプロジェクトの価値(例)

自由な発想で独創的な研究に挑戦する 若手研究者による研究プロジェクト

志の高い若手研究者による 日独の国際共同研究プロジェクト

ドキュメンタリー

Vol.37 2022/03/22

貴重なドナー肺をできる限り数い上げて、いのちをつないでいく。「臓器提供数と移植数の調和を目指した肺移植医療の実現」

医学部医科 講師
中野 大輔

くすのき・125

Vol.36 2022/03/18

生きづらさを抱える一人ひとりが必要な支援を受けられる社会をめざして。「脳腫瘍になった。だけど未来がある」を支えたい」

医学部医科 講師
田中 剛也

くすのき・125

Vol.35 2022/03/11

無機物から細胞まであらゆるものを繋ぐアパタイト、その可能性を追求する。「医療レス社会の実現に貢献する『アパタイト学』の構築」

エッセイ・科学部医科 講師
松本 浩平

くすのき・125

Vol.34 2022/03/04

「美」を問う人文知の歴史に、新たな学問領域をひらく。「美を体験することと脳-実証的人文科学の確立」

こころの未来研究センター 助産
石野 高子

くすのき・125

Vol.33 2022/02/25

ひとりでも多くの笑顔を守るため、周産期医学の未解決課題に挑戦する。「健康な赤ちゃんを：前期破水・早産を減らす」

医学部医科 講師
藤井 浩太

くすのき・125

Vol.32 2022/01/11

サルが感じる痛みを理解し、人間とのより良い関係を構築する。「人と動物の調和した地球社会を目指して：動物福祉科学」

畜産部 助産
山田 慶子

くすのき・125

Vol.31 2022/01/21

「精密な時フルエイ克服」

医学部医科 助産
藤井 浩太

くすのき・125

Vol.30 2021/12/24

がんと共に生き、生涯を全うできる未来をめざす。「がんの上皮間葉転換を免疫治療で制御できるか」

医学部医科 助産
藤井 浩太

くすのき・125

Vol.29 2021/12/10

分子の世界を支配する新しい法則を見つけ、エネルギーの未来を変える。「核の個性が顕在化する分子科学から水素社会の実現へ」

化学部 助産
小川 敬也

くすのき・125



持続可能なエネルギー転換政策の日
独比較を目指して

一柳 絵美

地球環境学舎・博士後期課程
ドイツ側共同応募者：フロレンティン・コッペンボルク、ミュンヘン工科大学 バイエルン公共政策大学院
訪問期間：2019年8月26日～9月16日



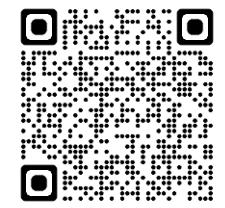
新規プロトン伝導機構Packed-acid mechanismに基づくプロトン移動の直接観察

小川 敬也

Max-Planck-Gesellschaft



創立125周年記念事業 「くすのき・125」



【間:AI DA】プログラム



最新の「国際統合報告フレームワーク (IR<IR>)」に埋め込まれたロジックモデル

- 組織（民間、公的、大学等）の長期にわたる価値創造能力をステークホルダーへ伝達するフレームワーク
- 広範な資本（財務、製造、知的、人的、社会・関係および自然資本）を考慮



長期にわたる価値創造 (保全・毀損)

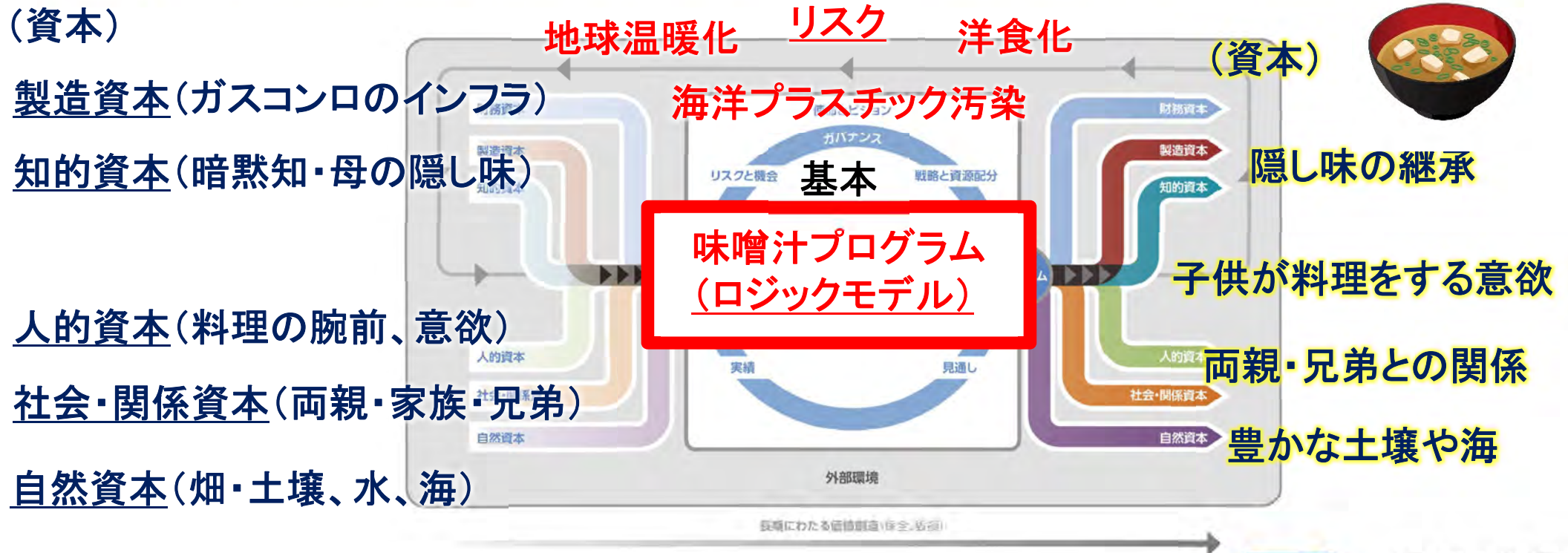


味噌汁プログラムを「国際統合報告フレームワーク」で考えてみる

基本ビジョン 実家の味噌汁の味を子供達(次世代)へ継承する

拡張ビジョン

実家の味噌汁の味を子供達へ継承することを通じて、自然豊かな土壌や海洋資源を保全しつつ、家族や両親・兄弟・姉妹の良い関係性を構築する



まとめ

ロジックモデルを共通ツールの一つとして、
身近な人から遠く離れた人とも共創的に、
新たな価値を社会へ提供できる人物を目指
して自己研鑽と相互研鑽に励みましょう！

